



新板
增補
毛吹草

5
2925
1



新校
増補
毛吹草

利5
2.925

門入
冊 2925
巻 1

先師名号



先師の御名号は
玉の御名号は
わが名号は



大と云つゝあつひふそく
志くもよしてあそひ侍
御名号は
連平の御名号は
名優緒よ
あつひ侍く
ての御名号は
平の御名号は
の御名号は
の御名号は

平

ゆるき一白のたねもすくう物と
あつくを能くもばす一のつら
きねの初のはくたのの終習と
てあつてさへある

名め一はくしてさへいかにあつて
くうしてさへあつてさへいかにあつて
三月やはくしてさへいかにあつて
月よのせしてさへいかにあつて
秋の夜よのせしてさへいかにあつて
目よのせしてさへいかにあつて
るうよのせしてさへいかにあつて
さへいかにあつてさへいかにあつて
大なるよのせしてさへいかにあつて
さへいかにあつてさへいかにあつて
一がれさへいかにあつてさへいかにあつて
はくもさへいかにあつてさへいかにあつて
けさの二のうらや二のうら
あつてさへいかにあつてさへいかにあつて
おさへいかにあつてさへいかにあつて

一まじつとあつてさへいかにあつて

はくもさへいかにあつてさへいかにあつて
あつてさへいかにあつてさへいかにあつて
物よのせしてさへいかにあつて
はくもさへいかにあつてさへいかにあつて
けさの二のうらや二のうら
あつてさへいかにあつてさへいかにあつて

一まじつとあつてさへいかにあつて

はくもさへいかにあつてさへいかにあつて
あつてさへいかにあつてさへいかにあつて
物よのせしてさへいかにあつて
はくもさへいかにあつてさへいかにあつて
けさの二のうらや二のうら
あつてさへいかにあつてさへいかにあつて

はくもさへいかにあつてさへいかにあつて
あつてさへいかにあつてさへいかにあつて
物よのせしてさへいかにあつて
はくもさへいかにあつてさへいかにあつて
けさの二のうらや二のうら
あつてさへいかにあつてさへいかにあつて

一まじつとあつてさへいかにあつて
あつてさへいかにあつてさへいかにあつて
物よのせしてさへいかにあつて
はくもさへいかにあつてさへいかにあつて
けさの二のうらや二のうら
あつてさへいかにあつてさへいかにあつて

かそくふおとらさむかろく
まて咲花を人かたてめあ
一とけりりらふあわししの歌

雲の小まきさきあまのさ
はく物も移ひえん雲の物
まのふたてあまのけりあ
一巻ふんはつら花のまうく
まけしあふあわらふまの
嵐のありさきそ柳のま
物あもあやたけあのあ
雲のりらふあまのさき

一とけりりらふあわししの歌

ねふねあぢの鬼子の部
まてあまのさきあまの
ねふねあぢの鬼子の部

一とけりりらふあわししの歌

うららあまのさきあまの
まてあまのさきあまの

一とけりりらふあわししの歌

花と風あまのさきあまの
まてあまのさきあまの
小まのさきあまのさき
寒のうららあまのさき
まてあまのさきあまの
おやあまのさきあまの

一とけりりらふあわししの歌

まの目あまのさきあまの
まてあまのさきあまの
おまのさきあまのさき
まてあまのさきあまの
目の目あまのさきあまの

一とけりりらふあわししの歌

まてあまのさきあまの
まてあまのさきあまの
りあまのさきあまの
けあまのさきあまの

しんじのちひのむいんちの梅
くひうせむいんちの梅の粗花
みそ花の花のまうたの粗花
花乃今折るるまのたが花
餅雪はういんちの粗花

一 初平梅の句

なごの身ひひめはなごの
雪の花は行じむいんち
ひのりち雪の虎のあけし
あまのまがはひのりち

一 梅梅の句

田福花とみかちもどらりや
風乃ゆらふちちあると柳
花とみかちまたかりあると葉

一 初平の句

寒風小枝又まらうと梅の花
ぬあてはらふはうらふ今梅
ふり梅は花小枝の初平

一 初平梅の句

雨天あてう方南とさう梅の花
梅はうけとさうとさうの梅
ゆりちのさう梅と梅の花
梅はうけとさうとさうの梅
梅の中の一ひとさうの梅

花のひたすの梅梅のあつと
らのちち若のたつと梅の花
とらひた若ふとさうとさう
おけうとさうとさうとさう

松ゆたの鯛のつらふあまて
 物傷あまの火しりあまのあま
 まの花あつらわのあつらわ
 あまのあつらわあつらわあつらわ
 云あつらわあつらわあつらわ
 其あつらわのあつらわあつらわ
 云あつらわあつらわあつらわ
 一はるあつらわあつらわあつらわ
 雲あつらわあつらわあつらわ
 めはるあつらわあつらわあつらわ
 雲あつらわあつらわあつらわ

一 眞白祈ふあ

一心乃あまの付句
 雲あつらわあつらわあつらわ
 みあつらわあつらわあつらわ
 雲あつらわあつらわあつらわ
 めあつらわあつらわあつらわ
 雲あつらわあつらわあつらわ

佛ふあつらわあつらわあつらわ
 雲あつらわあつらわあつらわ
 めあつらわあつらわあつらわ
 雲あつらわあつらわあつらわ
 めあつらわあつらわあつらわ
 雲あつらわあつらわあつらわ

一 眺望

雲あつらわあつらわあつらわ
 めあつらわあつらわあつらわ
 雲あつらわあつらわあつらわ
 めあつらわあつらわあつらわ
 雲あつらわあつらわあつらわ
 めあつらわあつらわあつらわ

一 見立

川岸乃河をかくらわあつらわ
 波立を物らわあつらわあつらわ
 水あつらわあつらわあつらわ
 水あつらわあつらわあつらわ
 水あつらわあつらわあつらわ
 水あつらわあつらわあつらわ

若しりあやうな事なれば
六月の月もあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた

一五五

あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた

一五六

あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた

一五七

あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた

一五八

あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた

一五九

あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた
あつたのちのあつた

ちとらあなありしる風草
厚氷を引くともや忘る
蜂のふりまわりうきまき
出ても鋼の鉢ころひせ
柳木のひ紋はくろく菊の
お屋敷の三月志んといふ
お屋敷の三月志んといふ

一 詞のえん

雪は梅小かきわけてや白ひ
平いづくも文武二名の
ふたそらや梅のふも

一 詞のお道

秀衣公 唐三つ

卯つきらのさみきうて
食小ははあふあふたの

一 不意相通

久くお愛する花はけけ
折おいたるこまき

一 重詞

進ぶらうあもあもあも
かつけを鳴まの人の
お梅と名おうらうや
鳥のねまてたふ
白波と白浪やわらうら
ぬく人よぬくまの
月を月小月小月小

一 抄

天を梅おまき
は花柳を雪のたを
一 小抄

あふとあふとあふと
たのまきまきまき
うらみあつたひ
梅はより今知
とやまはあひ
ひらりまはら

いそいで叶をぬけ何とぞとてわさ
も中も只その捨るるお礼は
一ておとと海へさるる

乞ふ縁ごとくひりの縁の又義
さしめとるる程とれをいふ
乞ふそあんずのかの又義
汗乃にまにまにさるる
あつあつとみつとるる
まじりぬ縁は乃もさるる
まじりぬ縁は乃もさるる
まじりぬ縁は乃もさるる
一羽と畧しちるる

ゆめ乃もさるる盛にあせりて死
とれおそのあつとるる
淡萩といせわつとるる
さるるの月を世果のあんとて
さるるのあつとるる
一そりてい

人さうもさるるあねわ花の波
張るる花さるる
産を産産氏といらん
あつとるる
片糸の雨のあつとるる
夜はしつとるる

一がと
はつとるる
とれおそのあつとるる
まじりぬ縁は乃もさるる
まじりぬ縁は乃もさるる

一五入
おつとるる
一志のあつとるる

ゆめ乃もさるる
まじりぬ縁は乃もさるる
まじりぬ縁は乃もさるる

一陽
一十七

又と見ぬ人さうとさあめりわ
日梨の穴じわわまきこりうる白

一名物

善宗今世花や目茶氣の茶
山科乃おまきやとこもわう海
類酸味やむ竹の子丸ちりえ
今からいへる道徳やめしは
徳とけい海めんわささひ

一法書

そのませてあゆ柳まの程と記
花の科を竹のそらすは海の新
まじつて行おすうるたさむ
すめえまふこめておの川を地
よほりふと志がめ晴る後の春

一対物

梅の香やとらん柳乃さりた後
春る廣らるる春ふあめあめ
梅豆の膳てらりやう龍け

成法神くまのりり富士の春

人々の交掛けしといふまて
何とそなたでいぬうさるる

ひめさうていもさくまわらや
鴨川とほつらたおまはる

うらさゆとらけいとやあ
まの海りかこいさう

毛程おらたいうふ高のふ

一文

そのまはんまお危の花乃陰

又まみまてん庭と以の堂は
まいあふさくじりまそるま

そりうらあかんおまの花乃
とあていりてんさうり花

風と霞かあそりりりめらぬ
川のかしらのおまかたてり

おぼるじまのたわおめらん

あひよしひ根中夫乃かゝるは
ほよてのそれろとつ飾ふ
尚多とてえ戸まひそ月の奥
あひよしひあつ書いし水の香

一 所書

花のしよまお別うま津の
静さ花ふらやほ花うま
あつ同のそりけめつ花を
あひよしひ月や二世に終せん
又いんしひ切せさや思極

一 七

き野のそ夜の曇もひつふ
せんろりしかこつ花ふらつ
よふ花のそそあはれやあつ花
いひまのあそそくやあり
とありやと灯ふらりのあつ
あつこのけ花とそよふ
あつああそとあつあつひの切

一 負教と後句

今あつあつし月くろ花うま
くろあつあつ八十一花あつ
かつあつあつあつあつあつ

一 十幹十三枝

年とひひ紙くろあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ

一 生歌

あつあつあつあつあつあつ
十月あつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ

式目

一 概得乃指人各を若くは和漢語
不用之而代ふ事ありて是れ大方固

一 但し之を席一より下へ

一 十句乃内禁制の物也其類小同

一 体用乃事一固也

一 紫物系本たり一固也

一 其系小面語類の物大方七句七

一 同季の物也其類乃七句七句

一 介七句七句乃其類乃七句七句

一 是後乃七句七句乃其類乃七句七句

一 津祇二人也 速懐 急 謙 同字

一 下流乃七句七句乃其類乃七句七句

一 草と草の 山と 鳥と 鳥と 鳥と 鳥と

一 名類乃七句七句乃其類乃七句七句

一 凡そ七句七句

一 一の箇二句物の事也其類乃七句七句

物乃分しては凡そ其類乃七句七句

一 如形小朱母 如月小路 如鳥

一 月乃 種物 一類七句七句乃其類乃七句七句

一 物類乃七句七句乃其類乃七句七句

一 付句小事七句七句

一 等小事乃七句七句乃其類乃七句七句

一 梯漢小事乃七句七句乃其類乃七句七句

一 是後小事乃七句七句乃其類乃七句七句

一 但し其類乃七句七句乃其類乃七句七句

汗一馬如也 隔一馬如也 余一馬如也

一 建一馬如也 一馬如也 一馬如也

一 乃乃小一 中一 小一 乃乃小一

一 是後乃一 乃乃小一 乃乃小一

一 乃乃小一 乃乃小一 乃乃小一

一 乃乃小一 乃乃小一 乃乃小一

一 乃乃小一 乃乃小一 乃乃小一

一 乃乃小一 乃乃小一 乃乃小一

一 乃乃小一 乃乃小一 乃乃小一



